

小滝周辺を歩く(小滝坑エリア)

1 象山-小滝の索道トンネル

象山の中腹に四角く開いている穴(黒く見える)が索道トンネルです。明治35(1902)年に小滝の里と銀山平を結ぶときに、妨げとなった岩山に穴をあけ、索道を通すことにしました。穴掘を苦にしない、銅山の町ならではの産業遺産です。

5 燕岩(旧小滝火薬庫跡・削岩機試掘跡)

象山の燕岩と呼ばれている大きな岩の中央にくぼんだところがありますが、ここは、小滝坑内で使う火薬を一時貯蔵していたところです。

また、上流部にたくさん穴があいていますが、これは、削岩機の試し操作をしたときにあけた穴です。

8 小滝の里

このあたりは、小滝の鉱山施設が集中する小滝地域の中心でした。昭和29(1954)年小滝坑が廃止になり、全ての施設が撤去されました。

昭和39(1964)年秋に、小滝に住んでいた人々が、昔を偲んで記念碑を建てました。現在は、昭和61(1986)年に建て替えられた二代目の碑と、左隣りには、平成7(1995)年10月建立された歌碑があります。

9 中国人捕虜収容所跡(興亜寮跡)

川向に石垣が見えます。そこは爺ヶ沢地区といい、中国人捕虜収容所がありました。昭和19(1944)年10月、当時の日本政府により中国各地から257名の人々が足尾に強制連行され興亜寮と呼ばれていた施設に収容、小滝坑内外で働いていました。

10 小滝製錬所・浄水場跡

この辺りを広道路といい、明治19(1886)年から小滝製錬所が操業していました。明治30(1897)年、政府から古河に出された第3回鉱毒予防工事命令により製錬所は廃止され、排水処理のため浄水場が設置されました。

12 畑尾鉱員社宅跡

小滝製錬所から出るカラミや廃石などを堆積した土地でした。その後役宅や坑夫長屋が建てられました。上流に馬立橋がかかけられており、また、第3発電所もこの付近にありました。

11 小滝小学校跡・新長屋跡

明治23(1890)年創立された小滝小学校は、明治30(1897)年以降この地に建て替えられ、明治34(1901)年には、足尾銅山尋常高等小学校分校から分校、私立小滝尋常高等小学校になりました。最盛期の小滝小学校には、1,035人の子供達が学んでいました。長屋は学校に隣接する東側に35棟が建てられ正式には、古足尾社宅といいました。

13 文象

このあたりを文象と呼び明治の終りころから大正の初めころには商店、飲み屋、回り舞台付の劇場、そして色町もあり、給料日には坑夫さんであふれていたそうです。

※索道(さくどう): 空中ケーブル。スキー場のリフトのようなもの
※直利(なおり): 銅をたくさん含んだ鉱石が集まっているところ
※取開け(とりあけ): 以前掘っていた所を再び掘ること



2 小滝の小滝

象山の下のカブ(象山の大曲り)から川を見ると、小さな滝が見えます。この滝を「小滝の小滝」といい、この滝から小滝という地名がつけられたといわれています。すぐ下の山岳橋からの眺めも最高です。

3 小滝旧坑口

江戸時代に掘られ放置されていたが、古河市兵衛の経営になり再び掘ったところ、わずか30尺(約9m)で大直利にあたりました。江戸時代1660尺(約503m)も掘り、あきらめていたことを考えると、市兵衛の運の強さを示す出来事といえます。

4 小滝坑口

昭和29(1954)年まで使われていた小滝のメイン坑道です。明治18(1885)年の旧坑道取開けから約70年間銅を産出し、この地域を支えて来ました。

6 小滝浴場跡・防音壁

坑夫は、坑内作業を終えての帰りに、この浴場で汗と汚れを落とすことを常としていました。お風呂の燃料には、この奥の銀山平製材所のオガクズを利用しました。資源を有効に利用していたことがわかります。北側の壁は、坑内に空気を送るコンプレッサー室の防音壁です。

7 小滝選鉱所跡

山の斜面を見ると、石積やレンガ積み跡の跡が残っています。ここには、選鉱所があり、大正9(1920)年に廃止されるまで、選鉱作業が女性の手によって行われていました。また上流には、この地域を統轄する事務所もありました。

11 小滝小学校跡・新長屋跡

明治23(1890)年創立された小滝小学校は、明治30(1897)年以降この地に建て替えられ、明治34(1901)年には、足尾銅山尋常高等小学校分校から分校、私立小滝尋常高等小学校になりました。最盛期の小滝小学校には、1,035人の子供達が学んでいました。長屋は学校に隣接する東側に35棟が建てられ正式には、古足尾社宅といいました。

13 文象

このあたりを文象と呼び明治の終りころから大正の初めころには商店、飲み屋、回り舞台付の劇場、そして色町もあり、給料日には坑夫さんであふれていたそうです。

12 畑尾鉱員社宅跡

小滝製錬所から出るカラミや廃石などを堆積した土地でした。その後役宅や坑夫長屋が建てられました。上流に馬立橋がかかけられており、また、第3発電所もこの付近にありました。

10 小滝製錬所・浄水場跡

この辺りを広道路といい、明治19(1886)年から小滝製錬所が操業していました。明治30(1897)年、政府から古河に出された第3回鉱毒予防工事命令により製錬所は廃止され、排水処理のため浄水場が設置されました。

神子内方面を歩く(東部エリア)

8 細尾索道跡

索道とは、ロープウェイ(架空索道、ケーブル)のことで足尾では鉄索と呼ばれていました。細尾索道は単線固定式循環策動で長さは約3.9km、地蔵坂から細尾にかけての細尾峠に架けられました。明治23(1890)年に竣工し、近代的な索道としては日本初とも言われています。

7 軽便馬車鉄道敷跡

渡良瀬から細尾峠入口(地蔵坂)まで敷かれていた馬車鉄道の道跡(石積み)が川向のところどころに見ることができます。

6 物資輸送基地渡良瀬

足尾銅山では、明治14(1881)年から相次ぐ直利の発見によって、産銅量が一気に増えましたが、それにともない銅山で使う資材や働く人々の食糧も大量に必要なため、明治23(1890)年に輸送力を確保するため、索道や軽便馬車鉄道をつくりました。そして、ここ渡良瀬を輸送基地として位置づけ、町内外各方面へ延びる軽便馬車鉄道網を整えました。

5 渡良瀬発電所跡(放水路)

建物向って左にある水路は、かつてこの地にあった渡良瀬発電所の放水路です。明治23(1890)年完成の間藤水力発電所の発電ではまかないきれず、中禅寺湖を水源とする日光発電所完成までのつなぎ役として明治34(1901)年に完成した出力220kWの発電所でしたが、大正末期に廃止されました。

4 木村長兵衛功業の碑台座

駐車場南西にある石積は、銅山飛躍に大貢献した第4代鉱長木村長兵衛功業の碑が建てられていた台座です。第二次世界大戦のさなか銅でできていた碑は、軍用として供出され台座だけが残されました。碑文の拓本が掛水倶楽部に残されています。

3 渡良瀬橋

川下にかかっている橋が、昭和10(1935)年に鉄製橋からコンクリートアーチ橋に大改造された渡良瀬橋です。傷みが激しくなり、上流に新橋をかけましたが貴重な構造ということで修景保存されています。当初は鉄橋でしたが一部鉄骨を抜き、そのままコンクリート構造に変えた珍しい橋です。

2 渡良瀬川

日本百名山の皇海山の麓を源流とする全長107.6kmの河川で、茨城県古河市で利根川と合流します。足尾銅毒事件の元となった川ですが、今は自然豊かな清流に戻っています。

1 わたらせ渡良瀬

このあたりを渡良瀬といいます。渡良瀬川、わたらせ渓谷鐵道など随所に使われている名称は、この地に由来するもので、命名は1200年前日光開山の祖、勝道上人によるものと伝えられています。勝道上人とその弟子が足尾を訪れたとき、激流で渡れず、渡る良い所を探していたところ、ここに来てようやく良い瀬があったので、この地を「渡るのに良い瀬」から「渡良瀬」と呼ぶことになりました。

1 わたらせ渡良瀬

このあたりを渡良瀬といいます。渡良瀬川、わたらせ渓谷鐵道など随所に使われている名称は、この地に由来するもので、命名は1200年前日光開山の祖、勝道上人によるものと伝えられています。勝道上人とその弟子が足尾を訪れたとき、激流で渡れず、渡る良い所を探していたところ、ここに来てようやく良い瀬があったので、この地を「渡るのに良い瀬」から「渡良瀬」と呼ぶことになりました。

1 わたらせ渡良瀬

このあたりを渡良瀬といいます。渡良瀬川、わたらせ渓谷鐵道など随所に使われている名称は、この地に由来するもので、命名は1200年前日光開山の祖、勝道上人によるものと伝えられています。勝道上人とその弟子が足尾を訪れたとき、激流で渡れず、渡る良い所を探していたところ、ここに来てようやく良い瀬があったので、この地を「渡るのに良い瀬」から「渡良瀬」と呼ぶことになりました。

